

# 実持てば分かる収穫期

県と業者  
共同開発  
手袋に色見本付け効率化

松阪市嬉野川北町の県中央農業改良普及センターと同市大口町の三重化学工業株(山川覚社長)が、出荷基準を満たした果実の色を判別するカラーチャート(色見本)付き手袋を共同研究開発した。果物の収穫時を見極めて効率良く作業ができるようになる優れもので、現在、特許を共同出願中。5月ごろから販売開始の予定だ。

## 特許出願中、5月ごろ発売

この手袋は、農林水産省果樹試験場基準カラーチャートを基に作成。カラーチャートは、果実を共同出荷する際、品質をそろえるために事前に果実の色を申し合わせるためのもので、収穫に適した果実の色をしている。これまでは農水省が監修

したカラーチャート板を使っていた。しかし収穫の際に板と果実の色を比べるのが面倒だったため、収穫時に必ずはめる手袋にカラーチャートをつけ、普段はやっていない人が手伝いに来た時でも簡単に収穫できる果実を判別できるようにした。

新しく開発されたカラーチャート付きの手袋は嬉野川北町の農業研究所で



極わせミカン、わせミカン、柿の3種類のカラーチャート付き手袋を作り、水性ポリウレタン、ニトリルゴム、ナイロン製。カラーチャートの中でも最も使う頻度の高い

3色を人差し指と親指の間に付けた。製造を担当した三重化学工業の企画開発室の宮下祐介さん(39)によると、カラーチャートの色は、既成の色ではなく調

合して新たに作らねばならず、まず色作りに苦労したという。さらに、伸び縮みすることではがれたりしないようにしたり、生地の色によって見え方が変わってしまうな

ど、細かい色の調整にも苦労し、「失敗を重ねてやっと出来上がった」と話す。

また、ミカンの皮には洗剤にも使われるリモネンという成分が含まれており、発泡スチロールを溶かすような性質もあるため、樹脂を特殊配合して劣化しないよう工夫した。安心安全なものにするにもこだわって、有機溶剤などは使わないようにしている。

同センターと三重化学工業では、今回作った手袋は最終段階ではなく、利用者の意見を聞きながら今後も改良を重ねて作っていききたいとしている。発売は、全農みえを通じて5月ごろを予定しており、価格は調整中。